



高橋ファンクラブガールズと

まず集合場所で、“あら、またお会いしましたね”と声をかけられた。さて、どこで会ったかなと思っていると、2月に奈良の三嶺山・高見山で会ったおばちゃんだった。そういえば俺の前後を歩く機会が多かったので、けっこう話しながら歩いたものだった。次はサービスエリアでバスに戻ってきたときだった。そのおばちゃんと話をしていた別のおばちゃんが私



に向かって“あら！”と声をかけてきた。2月の上高地の時に、帰りのバスの中で通路を隔てて隣の席であったので、過去に登った山の話などをしていっているうちに話が弾んで、このホームページのことを教えたら後でメールをもらった S ゴーさんだ。一昔前であったら「可愛いお母さん」で通ったのではないかと思わせるおばちゃんである。この他最近よく会う F ジタのデッパラおじさん。まだ現役なのによく休みが取れる。彼の名前は K トウさんと

思っていたら違っていた。私が K トウさんと呼んでも、適当に受け答えしていたのであるが、“似ているらしいですね”なんて言っていた。2012 年の和賀岳で会った K トウさんは気に入らない人であったので違ってよかった。

今回は一日目がバス移動のみで、二日目は二つのゴンドラを利用したので、地蔵山頂駅から熊野岳ピストンの 3 時間の行動であるから、宴会に行ったついでに山の散歩も行ったといったようなものである。こんな時はお天気さえ味方してくれて、適度に晴れたり、日焼けしすぎないように適度な雲が覆ってくれたりした。いつもこんな山登りばかりであったら良いのだが。蔵王名物のモンスターも、頂上付近ではかろうじて見ることができた。もっとも、東北のガイドの重鎮である近藤さんの話では 2 月の最盛期には“こんなもんじゃあないよ”とのことである。

毎日新聞旅行のツアーガイドは、社員の西山さん。彼とは 2013 年 4 月の大佐飛山以来だ。2 月の上高地の時の角田さんが 1 年ぶりのガイドだと言っていたので、社員の場合はそんなものなのかと思って西山さんに聞いたら、“私はケッコウ出てますよ”との返事であった。もう一人は毎度おなじみの清野さんである。

曜日が日・月であったので、いつものようにジジババばかりではなく、お兄ちゃん・お姉ちゃんも少しいた。メタル製のピッケルを輝かせた足の長いお姉ちゃんなんて形だけはケッコウ決まっていた。もう一人別の太めのお姉ちゃんは、こんな所でもバテテいた。



